



更なる成長を目指して

日産自動車株式会社
最高執行責任者
志賀 俊之

1. はじめに

世界的な金融危機と景気後退が深刻な影響を企業に及ぼす中、日産自動車はリカバリープランを着実に実行しています。新興諸国における成長、グローバルエントリーカーの市場投入、ルノーとのアライアンスの強化、そしてゼロ・エミッションの時代をリードし自動車産業の新たな時代を切り開くことを中期ビジョンとして掲げ積極的な取り組みを行なっています。

2. 新興諸国における成長

日産には新興諸国の経済成長が回復して需要が戻った暁には再び成長できる態勢が整っています。その一例として、6月にはロシアのサンクトペテルブルグで新工場の操業を開始しました。インドのチェンナイ工場は2010年に操業を開始し、新型のグローバルエントリーカーの生産が立ち上ります。今や世界最大の市場となった中国では十壇の新しいエンジン工場が稼働しており、2010年には鄭州の第二組立工場が立ち上ります。

3. グローバルエントリーカーの展開

新しいプラットフォームを採用するグローバルエントリーカーの開発が進んでおり、この商品群は年

間100万台の販売を期待しています。この商品群は、インド、タイ、中国など5カ国で生産される予定であり、欧州、日本、インド、タイ、南アフリカ、中近東など150カ国以上で販売されます。高い品質、広い室内、高い快適性、そして優れた経済性を兼ね備えたグローバルモデルです。

4. ルノーとのアライアンスの強化

10年に亘るルノー・日産アライアンスはシナジー効果を更に強化し、一段高いレベルに向かいます。研究開発、車両開発、パワートレイン開発、生産、物流、購買、マーケティング、情報システムなどの幅広い分野でシナジーを生み出す活動を行なうことでフリーキャッシュフローを生み出し、更なる成長を目指します。



グローバル市場向け新型コンパクトカー（スケッチ図）



電気自動車「リーフ」

5. ゼロエミッション車でリーダーになること

私どもは、ゼロ・エミッション車でリーダーになることを目的とした戦略を推し進めております。今年の日産自動車のトピックスは、2010年度に世界に向けて日産が投入するゼロ・エミッションの電気自動車、「リーフ」をお披露目したことです。この「リーフ」は2010年秋に追浜工場で生産が立ち上がりますが、米国を始めとした他の地域での生産も検討しています。まず年間5万台規模での生産を開始し、2012年度の量販に向けて台数を拡大していきます。電気自動車のモーターは横浜工場で生産し、インバーターは当初、座間で生産します。電気自動車の中核技術にあたるコンパクトリチウムイオン電池は、日産独自のラミネート構造を採用しており、関係会社のオートモティブエナジーサプライ株式会社(AESC)で生産します。日産は長年に亘り電気自動車の開発に取り組み、17年以上の活動の成果によって高性能なコンパクトリチウムイオン電池を開発しました。日産のリチウムイオン電池は従来型のリチウムイオン電池に比べ同等の質量ながら2倍の出力とエネルギーを実現します。このゼロ・エミッション車「リーフ」は自動車産業の歴史の中で初めて、持続可能なモビリティの究極のソリューションとして量販されるのです。「リーフ」は走行中にCO₂を全く排出しない車です。リチウムイオン電池がにより、静かで、効率的な走りを実現します。日産は、既に世界中の29にのぼる政府や地方自治体等と戦略的なパートナーシップを結び、ゼロ・エミッション車の普及を目指しています。インフラ整備などの環境づくりにも取り組んでいます。「リーフ」は環境対応の包括的なアプローチの一環です。

6. 日産グローバル本社

40年間お世話になった銀座の地を離れ、日産誕生の地である横浜にこの8月にグローバル本社を移転しました。このグローバル本社は日産の世界の事業の中心である、価値創造センターになります。環境保全にも十分配慮した建物になっており、1階フロアには40台以上の日産車を展示できる大きなショールームを有しております、皆様のご来場をお待ちしております。

日産自動車は今年、ゼロ・エミッション社会の実現に向け、確かな一步を踏み出しました。クリーンディーゼル、日産エコシリーズ、次期型CVT、デュアルインジェクターエンジンなど内燃機関の進化にも全力を尽くしており、お客様に幅広い選択肢を提供していきます。皆様方には今後の日産にご期待いただいくと共に、一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



グローバル本社